



日本赤十字東北看護大学看護学部で 養護教諭一種免許状が取得できます

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

(選択制 : 1学年 10名 履修希望者の中から3年次に選考します)

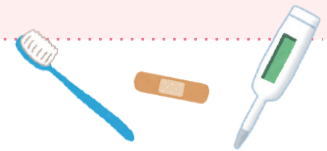
看護師資格取得のための学習をベースとして、教育職員としての教職教養、
養護教諭の専門性を身につけたプロフェッショナルな「養護教諭」の養成と
健やかな子どもの教育に貢献できる、人間性豊かな人材の育成を目指します。



養護教諭 (保健室の先生) とは

保健室を拠点とし、学校における教育活動を通じた心身の健康づくりによって、子どもの発育・発達を支援する教育職員であり、学校保健活動の推進にあたって中核的な役割を果たしています。近年、メンタルヘルスやアレルギー疾患などの子どもの現代的な健康問題の多様化、さらにはいじめ・児童虐待などの早期発見・早期対応を図るために、養護教諭に寄せられる期待はますます大きくなっています。

児童・生徒の皆さんから見た養護教諭は、どんなふう映っているのでしょうか。
本学看護学部の学生が授業の中で振り返った「保健室での思い出」を紹介します。



「看護とは何かを考えるときにいつも養護教諭の先生を思い出す

寄り添うことの重要性を教えてくれた先生は私の目標である」

「保健管理」「保健教育」

「保健管理」

保健室での応急処置等は限られているために、けがの予防や感染予防などの呼びかけや冬季の湿度管理等に努められていた。また、生徒一人ひとりの健康状態を把握していると感じた。保健室を利用した時は、より深く寄り添ってくれて食事や生活についてのアドバイスももらった。

応急処置の理由をはっきり教えてもらったので、漠然とした不安が緩和されて落ち着いて休養することができた。

毎月発行される「保健だより」は、その時期に注意しなければならぬ病気や対策など見やすくまとめられていた、そのおかげで、私は手洗いなどを自主的に行うようになったし、食べ物も好き嫌いを減らすように努力するようになった。

「健康相談」

「健康相談」

どの先生からも自分を理解してもらえず、辛い気持ちを抱えていた時に、保健室を訪れた。親身に話を聞いてもらえ、抱え込まなくてもいいことを教えてもらい、初めて自分の気持ちを汲み取ってもらえて嬉しかったし、安心することができた。

思春期はさまざまな悩みを抱えた生徒が多い。声をかけて相談する環境づくりをし、その内容からスクールカウンセラーや担任、部活動顧問等に働きかけて、コーディネーターの役割を果たすことで解決した問題もあった。

いじめにあっていたときに、親に心配をかけたくなくて話せなかった。思い切って保健室に行って先生に打ち明けたら、「辛かったね」と優しく声をかけてくれて、それまでの悩みが一気に解放された。勇気と元気、生きる力」もらった。

「保健室経営」

小学校でいじめられる教室にいるのが辛い時期に助けてくれたのが保健室だった。自分を受け入れてくれる居場所が学校になれば、私は不登校になっていたと思う。

いじめで教室に居場所がなかった悲しみや恐怖から唯一の心が休まる場所が保健室だった。先生は私の話を親身になって聞いてくれた。

「保健組織活動」

保健委員をしたことから、養護教諭の先生は学校にいる生徒、教師が健康に過ごせるよう環境づくりや健康管理をしていることに気づいた。学校はただ勉強や部活動をする場所と思っていたが、そのことに気づいて、感謝の気持ちで一杯になった。



養護教諭課程担当教員からのメッセージ

本学は、県内唯一の養護教諭養成機関です。

4年間の学びの中で「看護師国家試験受験資格」と「養護教諭一種免許状」を同時に取得できる点は、日本赤十字学園6大学の中でも本学ならではの大きな強みです。



養護教諭は、保健室を拠点に子どもたちの命と健康を守る、学校教育の「要」となる存在です。日々の保健指導等を通して、子どもたちの生きる力を育む重要な役割を担います。本学の教職課程では、建学の精神「人道」を基盤とし、看護の専門知識と教育実践の学びを密接に結びつけながら、学校現場全体を見渡し活躍できるプロフェッショナルな教員の育成を目指します。

子どもたちの笑顔と未来を支える、やりがいと満ちたこの道を、ぜひ私たちと一緒に歩んでいきましょう。皆さんの挑戦を全力でサポートします。



看護学部 教授

たかはし じゅんいち

高橋 純一 先生

本学卒業生からのメッセージ



佐藤 百萌 さん

出身高校：秋田県立秋田南高等学校

勤務先：男鹿市立男鹿南中学校

日本赤十字秋田看護大学看護学部*で「養護教諭一種免許状」を取得。

2022年3月に卒業し、同年4月から養護教諭として勤務。2025年4月から現職。

※現名称「日本赤十字東北看護大学看護学部」

看護学科へ入学を志す方へ メッセージをお願いします

養護教諭として働くうえで大切なことは、児童生徒や保護者、教育関係者などさまざまな立場の人に寄り添いながら、臨機応変に判断し行動することです。大変なこともあります。が、全校生徒と関わりをもつことができ、たくさんの笑顔とふれあうことができます。とてもやりがいのある職業です！

養護教諭の仕事内容・やりがいは？

養護教諭の主な業務は、子どもたちが健康に学校生活を送れるようにサポートをすることです。校内でけがをしたり具合が悪くなったりした生徒の救急処置、定期的な健康診断や健康相談などを行っています。そのほかにも、保健教育の一環として、掲示板の管理もしています。子どもたちの関心を引くようなポップを考えたり、レイアウトを模索するなど、日々の創意工夫もやりがいの一つです。

入室する子どもたちの話に耳を傾け、1人1人の思いを受け止めながら、「どうすればいいか、どうしたいか」一緒に考えるようにしています。子どもたちが心身の状態を回復させて、元気に学校生活を送っている様子を見るととても嬉しく思います。

養護教諭を目指そうと思ったきっかけは？

中学時代に出会った保健室の先生の存在が大きいです。学校生活で様々な悩みを抱えていた当時の私にとって、保健室は心から安心できる場所でした。保健室の先生に親身に話を聞いてもらったおかげで、自分の気持ちを整理して前を向くことができました。この経験がきっかけで、養護教諭という仕事に憧れるようになりました。

学齢期は、体や心が大きく変化・成長する大切な時期です。心や体の変化、友達や家族との関係性など、当時の自分と同じように様々なことに心動かされる子どもたちの力になりたいと思い、養護教諭を目指しました。



学生時代に学んだ事は、 今どのように役立っていますか？

看護実習や養護教諭実践演習で培ったアセスメント能力や主体的に学びを深めようとする姿勢、問題解決能力がとても役立っていると思います。たとえば、学内で救急処置をすべきか、それとも病院を受診させるべきか、そうした“判断の場”における冷静な対応は、大学時代の学修の成果だと感じています。

秋田県教育委員会より特別選考の対象校として本学が認められました

令和4年度秋田県教育採用試験より本学が特別選考の対象校として認められ、推薦枠1名を獲得しました。

特別選考の対象校は弘前大学に続き、本学が2校目です。



公衆衛生・教職課程実習室



養護教諭で活躍している卒業生を
招いての特別講義の様子



『健康活動相談論』での演習、
ディスカッションの様子